



発行  
KOA 森林塾  
(事務局)  
0265-70-7065  
編集 坂野慎治  
題字 島崎洋路

『雨に煙る植栽地』  
「植林・樹木分類」

通年コース第一・二回開催報告

天気図には、季節はずれの熱帯低気圧と、まるで梅雨のような日本列島上の前線。そして、予報どおりの雨模様。現場は、今年も伊那市西春近の下殿島区有林。十数年前



雨に煙りながら

に山林火災が発生した跡地です。燃え残りのアカマツ丸太がそこここにあり、等高線に沿って縞をつくる地拵えには苦勞するところ。合羽を着込んでの傾斜地



活着を願い、丁寧に

での植林は、滑る足元と蒸れる身体という悪条件のなかで。しかし、雨に煙る植栽地で、ねかえる土も気にせず、一本一本丁寧に植えられたヒノキの苗は、四百本になりました。翌日は、樹木分類と鳩吹山散策。今まで以上に樹木が身近に感じられるようになった

通年コース  
第一・二回  
5月19日(金)  
植林

8時35分

島崎先生の山小屋に集合。早川講師の挨拶。島崎先生の挨拶。自己紹介や日程説明など。遠くは高知や仙台から十五名の一年

9時55分

分乗して西春近にある下殿島区有林に向かう。林道入り口に車を停めて、十分程の徒歩で植林現場へ。

10時35分

今年も現場は、十数年前に山林火災が発生した下殿島区有林。植林に先立つ地拵えについてや植林方法の講義と実演を早川講師から。根を丸めて穴に押し込まないこと。戻す土には、枯葉や枝を混ぜないこと。根の回りは足で踏んで、土を固めておく。などなど。三年生のヒノキ苗を、今年



くっきりと、植栽列

11時5分

百本用意。インストラクターとOBの方々が、根を切った苗を分配して、植林の開始です。雨が冷たく、合羽に包まれた身体は蒸れ蒸れ。個々に休憩をとりながら、一本一本丁寧に植えていく。

12時

現場にて昼食。恒例の豚汁。雨は止むことなく、休憩もままならなくなってきたので、

12時40分

植林再開。掘った土が綺麗な植栽列となり、だんだんと斜面の上の方へびて行く。斜面の植栽を終えたら、手前の平地部分に移る。

14時20分

天候と疲労を考慮して、四



単葉か？複葉か？

百本の植栽にて現場作業を終了。道具を片付けて、  
15時10分  
小屋へ戻り、質疑応答。  
15時45分  
講師講評と諸連絡にて、終了、解散。お疲れ様でした。

5月20日(土)  
樹木分類

8時35分  
島崎先生の山小屋に集合。講師挨拶、日程説明など。

8時40分  
早川講師による分類学の講義を受けた後、知っている樹木がどれくらいあるかの小テスト。

9時15分  
三つの班に分かれて、サンプル樹木の和名検索を行う。単葉・複葉、互生・対生、全縁・鋸歯・・・など、まずは検索アイテムを理解して、この樹はなんの樹か調べてみる。一通りの検索が終わった後は、各班で小屋周辺の樹木散策。小屋西側の林は市有地ですが、島崎先生の発案と



脈上に毛が・・・

実施で、クリやヤマザクラ、ヤマツツジ、ハリギリなどを重点的に残し、見て楽しいし実もなるし、将来は有用材も期待できるという森に誘導しているところですよ。

12時10分  
小屋で昼食。昨日の残りの豚汁をおかず。

13時10分  
分乗して鳩吹山へ。林道終点の「やっここ平」に着いたと思ったら、雨。

13時35分  
合羽を着込んで散策開始。早川講師の説明に驚いた

り感心したりしながらの樹木観察。ミヤマザクラ、コバノガマズミ、ヤハズハンノキ、ウダイカンバ・・・恐竜の足形のような葉っぱの樹、小枝を焼酎に漬けて香りを楽しめる樹・・・あなたのお気に入りになった樹はありませんか。

15時40分  
ゼンマイ収穫のおまけも付いた散策を終了し、小屋へ戻る。

16時10分  
鳩吹公園駐車場にて、講師総括。諸連絡をして終了、

解散。お疲れ様でした。参加者/石垣さん、石田さん、石原さん、井上さん、榎さん、大村さん、川越さん、小池さん、坂上さん、高野さん、高橋さん、長田さん、堀江さん、山本さん、吉永さん、中神さん、斉藤さん、園田さん、長坂さん

講師/島崎先生、早川講師  
スタッフ/川島、後藤、平林、坂野

「基本の復習から」  
専門コース第一回開催報告



専門コースが開催されるようになってから五年目の今年度も、他のコースに先駆けて、まず第一回が開催されました。塾生は関西コンビ？のお二人。ほぼマンツーマン状態なので、たくさん実践を行えることとなります。終始厳しい視線を感じながらの伐倒となり、作業量も多くなりますが、無理は禁物。一つ一つの確認をしながら、次のステップへとレベルアップしていきましょう。

決め、水平伐りでは水平に、斜め伐りでは角度を一定にチェーンソーを保持しつつ、深すぎず、高すぎず、低すぎず、方向を逸らさないように・・・伐りこんでゆく。場面での確認はもちろんとときには伐り直しもいとわず、へこまず。追いつけず退避。始めたら、慌てず退避。うまくいった時もひやっとした時も、いつも冷静に、自分の伐倒が基本に忠実であつたかどうかを振り返る。伐る木の大きさにかかわらず、常に基本の反復と修正を。そして、強固な土台にいろいろな応用技術を。



専門コース第一回開催

4月20日(木)

〜22日(土)

一日目

8時30分

鳥崎先生の山小屋に集合。講師、事務局の挨拶。激しい雨のため、現場作業を取りやめ、傾斜地での伐倒・枝払いや樹高の見方、かかり木の処理などについて講義を受け、質疑応答。

11時5分

雨の日にはアイを作りましょうと、ロープのアイ加工。口差しと編み込み



伐倒方向・・・要確認

を混同しないよう。

12時

昼食。

13時

引き続きロープのアイ加工を習熟する。

13時30分

雨が上がったので、現場へ。伐倒開始。受け口・追い口・つる、といった基本の確認から。

16時15分

作業終了、解散。

二日目

8時30分

再びの雨。なので、昨日の作業終了後にやらなかったチェーンソーの掃除や

刃の目立てを入念に行う。

10時15分

伐倒開始。四月も下旬なのに、冷え込みが厳しく、雪が舞うなかでの作業となる。チェーンソーの構え

12時15分

方や立ち位置などの修正を加えながら、より安全

13時20分

確認な伐倒に取り組む。小屋へ戻り、昼食。

16時40分

伐倒再開。伐倒後の振り返りを忘れずに。作業終了、解散。

三日目

8時30分

ようやく朝から晴れて、早速現場へ。まずは、目立てと体操。

9時

伐倒開始。枝払いを考慮し

た伐倒をやってみる。傾斜上方で、幹の左側に

11時45分

立つて枝払いをするには・・・伐倒方向は・・・木の傾きや枝張りには・・・退避路は・・・

13時30分

小屋へ戻り、昼食。

14時45分

伐倒再開。ステップアップを目指し、矢を使った伐倒を行う。

16時40分

枝払い中に、ソーチェーンが外れたため、変形したランナーを修正。作業を終了、解散。お疲れ様でした。

参加者/熊木さん、神保さん

講師/早川講師

スタッフ/坂野



つるの量と追い口高さ

次回以降の予定

第三・四回

6月16・17日(金・土)

測量、

歩道開設・下草刈り

一日目は、小屋の周辺で、方位・傾斜角度・斜距離を測って、製図をしてみます。また、林道の測量もする予定です。二日目は、午前中に、林道測量をした路線を歩道として開設してみます。午後は、植林をした現場へ移動して、下草刈りを行う予定です。また、初日夕方には、ミズボ鋼機の方がナタ・ノコ・ヘルメットの見本を持ってきてくれます。

第五・六回

7月14・15日(金・土)

測樹・施業診断、伐木造材

関数電卓、鉛筆、消しゴム、定規、分度器をご持参願います。雨具・防寒着もお忘れなく。8時30分、鳥崎先生の山小屋に集合です。

専門コース第二回開催

7月6〜8日(木〜土)

基本の反復と前回に比べよりステップアップした方法での伐倒に挑戦してみましよう。また、傾斜地での安全な造材や枝払いの習熟も平行して、ご希望があれば牽引伐倒やひっぱりこ集材も可能です。現場は前回と同じ小屋近くの林分を予

定しています。三日間ともに、8時30分、鳥崎先生の山小屋集合です。



一日目は、どんな木がどれくらいあるか。伊那市ますみが丘平地林の一角で、太さ・高さを実際に測ってみます。そして、そのデータをもとに、現在の健康状態や今後の施業の計画を立案してみます。二日目は、いよいよチェーンソーを使った実践。始動方法や丸太の輪切り練習、玉切り。そして立っている木を伐倒してみます。できれば簡単なメンテナンスもやってみたいと思っています。

8時30分、鳥崎先生の山小屋に集合。雨具、筆記用具と電卓も忘れずに。それとあればヘルメットやナタ・鋸を。

# リー通信



## 「山を育ててみたい！」 石原 信行

名古屋から参加しました石原信行と言います。年齢は五十五歳、仕事は地方公務員で生涯学習の施設で働いています。仕事の関連で子どもや親と遊びを通じた自然体験や遊び場づくりを公私にわたって続けています。最近ではNPOとのかかわりも持っています。KOA森林塾に参加したのは、これからの人生の生きる術を学ぶためだと思っています。人生の後半のまとめとして、いままでの価値観にとらわれずに、自分の可能性を生身のところで感じ、挑戦してみたいからです。そのフィールドとし



て、山を選びました。その山修行の第一回(五月十九日・二十日)では、ヒノキの植林、樹木の和名検索、鳩吹山での樹木散策を行いました。植林では、雨の中三十代から七十代の人たちが、慣れない手つきで、泥んこになりながら植えつけました。植わった後を眺めるときにヒノキの苗が並んでい

ます。自分達で汗を流したせいでしよう、なかなかいい眺めでした。また「植物とは何ですか?」と始まった講義や樹木のサンプル検索では、いままで漠然と知っていると

思っていたことを改めて、一から学習方法を習うというまるで一年生になった感覚が新鮮でした。山は登山がハイキングで健康のために出かけていたものですが、これからは「この樹木は?」と検索図鑑を見ながら歩き、頂上に着くことが目的ではなくなりそうです。島崎山林研修所近くの森を島崎先生は、「他人に任せられない。」とおっしゃって、森の管理をしてみえるよう

です。「ツツジがきれいだから。」とお勧めもあり散策させていただきました。手をいれてから六年程だそうですね。いろいろな木が気持ちよさそうに芽吹き、見ているだけ

で元気になってきました。素人だから考えることができるのですが、僕も「自分の山を持つてみたい。」と思うようになりました。すると、いままで通勤電車からみえた家々の庭は、ただ単に「緑色」にしかみえていなかったのですが、今は「あれは何の木?」と思うようになっています。検索図鑑を手に入れてからは、通勤途中にちょっと葉っぱを失敬して、仕事の始まる前の時間に葉っぱを見ながら、「つる性でない。単葉。葉は裂けていない。互生。キザキザがある?」と調べはじめています。記念すべき最初の木は、「ソヨゴ」でした。インターネットでさらに検索するといろいろなことがわかってきました。「ソヨゴは関東地方・新潟県以西の本州・四国・九州に分布する常緑の高木。二次林の構成種としてポピュラーな樹木であり、アカマツ林中に多くみられる。・・・岡山県の北部では「膨れる柴木」という意味で、「ふくらしば」あるいは略して「ふくらし」と呼ぶ。薪にするとパチパチと音をたてて派手である。・・・ソヨゴはモチノキ科モチノキ属で、モチノキ科を探索していくと、という具合にはまり込んでいきそうです。まずは、毎朝葉っぱを一枚一枚いた

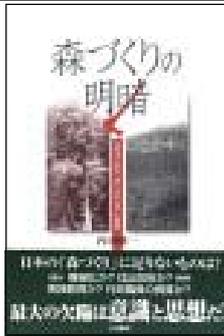
だくことから始まりそうです。一年間続けばすごいことになりそうです。

友人(松本市出身)に近況を報告すると、子どもの頃に山仕事を手伝っていたこともあり、彼も「山を育ててみたい。」と仲間になりました。これから三月まで森林塾でみなさんといっしょにいるいるなことが学べることを楽しみにしています。よろしくお願いします。

書籍紹介  
**「森づくりの明暗」**  
内田 健一 氏 著

信州伊那谷の「きこり」の親方が、二十一年、恩師でもある島崎先生と共に岐阜県立森林文化アカデミーの教官に着任。プロレベルの現場きこり技術と大卒レベル以上の森林学の知識を両立させるための研究室「森づくり塾」を開講した。

その異端教官と学生達が機械化林業の指針とされる



スウェーデンとオーストリアへの研修に旅立った。企業や森林組合など担い手の存在基盤、機械化の背景と林業技術、教育システムから意識や思想に至るまで両国の実情をレポートしながら、同時に日本の森林に山積する問題を点を総ざらいして、日本の「森づくり」の未来を深く洞察した一冊。

是非一読を。(川辺書林・千六百八十円)

### コラム

今年は縁あって二つの植樹祭に参加してきました。一つは長野県の植樹祭。もう一つは全国植樹祭。長野県では地域が広いため、各地域持ち回りで開催されています。今年には伊那地域の根羽村、来年は木曾地域のどこかで、といった形です。これは各都道府県でも開催されていると思いますし、誰でも参加できますので、一度ご家族などに参加されてみるのはいかがでしょうか。新たな発見などあるかも。

一方、全国植樹祭は誰でも参加できるという訳ではありません。こちらは全国から多くの参加者があり、また天皇、皇后両陛下の国事行為という位置づけもあり、限られた招待者のみということに

なります。昭和二十五年に山梨県で初めて開催され、以来各都道府県を回って今年には岐阜県、来年は北海道という順になっています。

開催当初は、「戦中・戦後の過度な森林伐採により荒廃した国土の緑化をはかる」という目的があったのですが、今では植林する場所を確保するのが難しいくらいに山は緑にあふれており、時代の変遷を感じます。また、そういう時代背景もあってか、今回の全国植樹祭は、植林した後の手入れの必要性を訴える植樹祭でもありました。

「イントラ 川島」

お陰様で十三年目を迎えたKOA森林塾。今年もまず、安全第一。時には大声で、あるいは腕を驚掴みにしての避難という場面があるのかと思いますが、ご容赦の程よろしくお願致します。

### おわりに

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065  
FAX 0265-70-7994

E-mail:  
sh-sakano@koanet.co.jp  
ki-hayakawa@koanet.co.jp  
携帯:090-4463-0062(開催日)  
URL http://www.koanet.co.jp

